

番号	課名
F - 1	教育総務課

事務事業名	スクールバス等運行事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	少子化の加速化と将来的な学校施設の整備方針、通学路の見直し、通学支援の検討	
	関連施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保
		VII-21-50	防犯・見守り体制の充実

事業内容(経緯)	学校統廃合等により、通学する学校が変更となる児童・生徒の登下校の通学距離が遠距離になることから、スクールバス事業の対象者に対し、市内運行委託事業者によるスクールバスや通学タクシーを利用した通学支援を行います。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	スクールバス運行対象児童生徒数	対象校:臼杵小、臼杵南小、野津小、北中	人	154	154	137	128	121
②	通学タクシー対象児童生徒数	対象校:臼杵小、臼杵南小、下北小、南野津小、北中、東中、野津中	人	21	27	26	26	20
③	スクールバス運行路線数	上浦・深江線、中臼杵線、戸上線、都松線、田野線、佐志生・下ノ江線	路線	6	6	6	6	6
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童生徒1人あたり運行経費				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	スクールバス等運行事業に係る総経費÷利用児童生徒数			
	35,781	36,459	内容		数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源			206.0	186.0	213.0	233.0	259.0

事業対象	スクールバス事業の対象となる児童生徒	今年度の成果	遠距離通学の児童、生徒にとって安心・安全な通学ができ、同時に保護者による送迎負担の軽減を図ることができました。
------	--------------------	--------	---

成果指標	指標名	利用希望者の利用率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	利用児童生徒数÷利用希望児童生徒数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	通学支援が必要な児童生徒が利用できているのか	%	100	100	100	100	100

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	小中学校の廃校に伴い、当該校区に住んでいる児童生徒の通学の補償として、スクールバス並びに通学タクシーを運行しています。他の公共交通が普及しておらず有効性は高いものとなっています。また、登校時間に間に合うよう最短かつ効率的な運行ルートとなるよう、年度ごとに変更しており効率のよい運行に努めています。				

事業の問題・課題	市所有のマイクにおいては、廃校時に併せて購入しましたが、走行距離も伸びていることから計画的に更新していく必要があります。児童生徒の送迎については、マイクロバス、10人乗りの乗用車、5人乗りの乗用車と車両を使い分けて送迎を行っています。委託事業者における運転手の確保も年々厳しくなっており、運行自体実施することが厳しくなることが考えられます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 2	学校教育課

事務事業名	ICT活用教育推進事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題(事務事業の実施目的)	「授業力向上」及び21世紀を生き抜く子どもに必要な学力向上の取組、子ども教育内容充実のための教職員の働き方改革	
	関連施策名(施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実

事業内容(経緯)	GIGAスクール構想に基づく1人1台端末及び通信環境の整備完了を受け、ICT教育に不可欠な授業力の向上を目指した教職員のタブレット端末や授業支援アプリ等の活用研修、ICT支援員の派遣、家庭学習への活用を図るためのルール作りなど、変化の激しい情報化社会を生き抜くために必要とされる「問題解決能力」の育成に必要なソフト・ハード両面のICT環境の整備を実施しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	校内ICT研修実施校数	校内ICT研修を年3回以上実施した学校数	校	-	18	18	18	18
②	授業でICTを活用した指導ができる教員の割合	文科省:教員のICT活用指導力等の実態調査「授業中にICTを活用して指導する能力」に対して、「できる」「ややできる」と答えた割合	%	81	81	85	90	88
③	授業で児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合	文科省:教員におけるICT活用指導力等の実態調査「児童生徒のICT活用を指導する能力」で「できる」「ややできる」と答えた割合	%	-	-	83	90	91
④	電子黒板の整備台数	普通教室、特別支援教室、特別教室(理科室)の電子黒板の整備台数	台	-	-	23	-	140

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童・生徒1人に対するICTツール(機器・ソフトウェア)導入費用					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	機器購入、ライセンス等使用料の1人あたりの金額(単位:千円)				
	29,044	47,442	内容	ICT活用推進事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国県支出金、地方債			51,534	1,707	3,776	4,690	16,598

事業対象	市内の児童・生徒	今年度の成果	授業の中でICTを活用する教員の割合は年々増加傾向にあります。全員の意見の共有・発表等の「協働的学び」やデジタルドリル教材の活用も各校で進み、自分のペースで学習できる「個別最適な学び」の実現も出来ました。
------	----------	--------	--

成果指標	指標名	ICT機器を使うのは勉強に役立つと考える児童・生徒の割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	毎年実施する全国学力調査の「コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つか」という質問に対して「かなり役立つ」「役立つ」と回答した割合。		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	ICT機器の整備や教員の授業におけるICT活用能力の向上を図った結果として、子どもたちの学びに反映されているかを検証するため。	%	-	小96.1 中96.0	小95.1 中95.1	小97.3 中96.1	小92.8 中96.2

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	教員のICT活用や子どもたちがICTが学習に役立つと感じる割合が増加するなど、一定の成果を実感しています。効率性については、授業活用頻度の高くない教員の存在やデジタルドリルの活用に消極的な学校が見られ、引き続き活用頻度を高める取り組みが必要です。

事業の問題・課題	事業の成果が出てきており、授業等でのタブレット端末の活用が促進されていますが、全く活用していない教員が少数いるなど、学校間や教員間の格差が生じている可能性があります。また、タブレット端末を活用した持ち帰り学習に消極的な学校が見られます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

白杵市 事務事業評価シート

(令和6年度実施事業)

番号	課名
F - 3	学校教育課

事務事業名	自然の中での宿泊体験事業(農泊体験授業)			新規・継続・単年	継続					
				ソフト・ハード	ソフト					
総計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進							
	施策の課題(事務事業の実施目的)	自然の恵みの中での行われる体験活動や人とのふれあいを通して、豊かな感性と感謝の気持ちを育む。								
	関連施策名(施策コード)	-	-							
事業内容(経緯)	H21年度から市内小学生を対象に自然体験活動を実施しています。H25年度からは小学5年生全員を対象に実施しています。(コロナ禍でR2年度の5年生が実施できなかったため、R3年度からR5年度までは5・6年生を対象に実施)農村民宿に滞在し、受入家庭の方々との交流や自然体験活動を通して、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育むことを目的に実施しています。									
行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総計画の期間内)					
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
	①	参加児童数	市内小学校5年生で宿泊体験事業に参加した児童数	人	-	299	314	481	260	
	②	募集参加学校数	市内小学校5年生で宿泊体験事業に参加した学校の率	%	-	100	100	100	100	
	③									
基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	農泊1泊2日、1人当たりの費用				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計	説明・算式・引用	委託料、保険料、交通費(単位:円/人)				
	4,330	2,665	内容	農泊体験学習委託	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移				
			財源	参加料		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
					-	10,097	10,602	9,002	10,250	
事業対象	小学校5年生		今年度の成果	5年生全員を対象に実施しました。令和6年6月27日から11月8日までの期間で、260人が参加しました。						
成果指標	指標名	農泊体験学習アンケート提出率			単位	数値の推移(総計画の期間内)				
	説明・算式・引用	実施後の児童生徒担当教諭の感想				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	コストでは測れない郷土愛の醸成と成長を確認するため			%	-	100	100	100	100
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	農泊体験学習アンケートの結果では児童の成長と活発な活動が好評でした。同一ブロック内での班編成で他校との交流も深まり、小中一体教育を推進する上で効率的です。3つの「きょう育」の重要事業の1つとなっています。					
事業の問題・課題	農泊体験学習アンケートの結果では、児童の成長と活発な活動が好評でした。同一ブロック内での班編成で他校との交流も深まり、小中一体教育を推進する上で効果的です。3つの「きょう育」の重要事業の1つともなっています。									
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	順調		貢献度 大		向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。					

番号	課名
F - 4	学校教育課

事務事業名	臼杵市学校給食運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	安全でおいしく栄養バランスのとれた学校給食の提供及び健全な心身の成長をめざした食育の推進	
	関連施策名 (施策コード)	IV-11-20	「有機の里うすき」の実現

事業内容 (経緯)	本市では、児童・生徒、教職員の計約2,500食を提供しています。有機栽培された「ほんまもん農産物」等の地元食材の使用率向上を図るとともに、栄養教諭による食や栄養、マナーなどの食育指導も積極的に実施しています。また、保護者や学校との綿密な確認等で可能な限り通常食に近い喫食となるよう食物アレルギー対応食を提供しています。近年では学校給食センターの施設及び設備・機器の更新・改修の必要な箇所が増加しています。
--------------	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	食育に関する授業の回数	栄養教諭による食育授業回数	回	119	134	153	194	182
②	学校で食育授業を受けた児童・生徒数の割合	栄養教諭による食育授業を年1回以上受けた児童・生徒の割合	%	70.8	83.7	93.3	100.0	100
③	ほんまもん農産物の使用割合	使用野菜総量(重量ベース)に対するほんまもん野菜の割合	%	12.5	11.4	23.9	23.7	19.3
④	施設更新工事費、修繕費	施設を維持していくための工事費、修繕費	千円	23460	3691	16963	15679	19532

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	給食1食あたりの運営事業費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	公費負担における1食あたりの経費(事業費決算額/年間の提供食数)				
	209,244	240,575	内容	学校給食費	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般財源・国等交付金			392	388	475	408	516

事業対象	市立小中学校の児童・生徒	今年度の成果	気候の変化(高温)によってほんまもん農産物の不作が生じ納品キャンセルが多かったため使用割合は減少しました。しかし食育授業や児童生徒への給食だよりでほんまもん農産物を使用していることをお知らせすることで、児童・生徒の地元野菜に対する愛着が増えています。
------	--------------	--------	---

成果指標	指標名	学校給食に臼杵市産野菜を使用している割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	使用野菜総量(重量ベース)に対する臼杵市産野菜の割合		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定の理由	多くの使用品目における臼杵市産野菜の使用率を把握することができるため	%	35.64	36.14	43.84	41.34	34.83

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率性が低い	ほんまもん農産物の使用率は20%弱と全国有数の高率ですが、天候不順による納入キャンセルや、大きさ・重量など規格のばらつきも多く、大量の食数を限られた時間内に調理しなければならない学校給食で使用するには課題も少なくありません。				

事業の問題・課題	子ども達の健全な成長のために、学校給食は非常に重要な役割を果たしています。給食事業の本来の目的は、安全かつ質の高い給食を提供することであり、ほんまもん農産物の使用はそのための一つの有効な手段に過ぎません。ほんまもん農産物の使用率を過度に重視しすぎ、目的がほんまもん農産物を使用することそのものになってしまい、野菜やメニューに偏りが生じないようにする必要があると考えます。栄養バランスが取れ、子どもたちが楽しく食べられる給食を提供することを第一に考えつつ、同時にほんまもん農産物の使用率向上を目指す必要があると考えます。また臼杵市学校給食センターの経年劣化により施設および設備・機器の更新や改修の必要性が高まっていますので、計画的に必要な工事、修繕を行っていきます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
F - 5	学校教育課

事務事業名	いじめ対策、不登校支援事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	いじめの認知数・不登校の児童生徒の増加	
	関連施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
		I-2-4	地域における子育て環境の充実

事業内容(経緯)	「いじめ見逃しゼロ」をめざし、積極的認知を行っています。いじめ対策や不登校支援等の対応は、担任や学校だけでなく「チーム学校」として専門性のあるスクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー(SSW)、教育支援センター「さすな」、臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぼー」となどと学校が連携し、組織的な対応を推進しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	いじめ認知件数	問題行動調査等生徒指導上の諸問題に関する調査	件	(小)211 (中)80	(小)323 (中)57	(小)212 (中)68	(小)206 (中)58	(小)220 (中)48
②	QU学級生活不満足群の割合	QUは、いじめ・不登校未然防止の検査。小6、中1で実施	%	(小)17 (中)16	(小)14 (中)22	(小)16 (中)17	(小)10 (中)17	(小)30 (中)39
③	スクールソーシャルワーカー(SSW)が対応した件数	児童生徒、保護者、教職員等対応件数	件	216	573	424	394	334
④	教育支援センター「さすな」登録者数	「さすな」へ登録した児童生徒数	人	11	20	15	22	20

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	いじめの認知数・不登校の児童生徒調査					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	1人当たりの問題行動調査等生徒指導上の諸問題に関する調査費				
	9,235	16,393	内容	いじめの認知数・不登校の児童生徒支援費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	県補助金			-	21	27	35	61

事業対象	市内の児童生徒	今年度の成果	各校では、チームカンファレンスやケース会議等を開き、組織的に児童生徒支援を行う意識と体制が強化されました。これにより、未然防止や早期対応が可能となり、解決に至る事業が増えています。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	いじめ解消率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	問題行動調査等指導に関する調査(いじめの解消数÷いじめの認知数)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	いじめの認知数・不登校の児童生徒の増加に伴う調査		%	(小)76 (中)62	(小)61 (中)72	(小)54 (中)56	(小)50 (中)87

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	いじめ防止対策推進法によると、いじめは「児童等が心身の苦痛を感じているもの」であり、積極的に認知し解消率を上げることが必要です。児童生徒が安全安心の中で学校生活を送ることができるために必要な取り組みです。

事業の問題・課題	児童生徒の支援とともに、年々、家庭支援が必要な事案が増えつつあり、教職員だけでは解決できないケースが増えています。現在のSSWだけでは対応しきれない時もあり、今後ますます関係機関との連携が必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 6	学校教育課

事務事業名	学力向上対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市の児童生徒の学力定着と向上を図る	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	臼杵市の全ての子どもたちが笑顔で「15の春の自立」を迎えるため、確かな学力の定着をめざします。中学校ブロックごとの小中一体教育による小中連携、高校生学習サポーターの活用による中高連携も行います。複式授業解消、少人数指導、ATの活用などによる、個に応じた指導の充実、授業力向上を図ります。臼杵市基礎基本テスト等で基礎学力の定着状況を把握し、補充学習や授業改善に活用します。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	複式授業の解消率	複式授業解消の割合	%	100	100	100	100	100
②	中学校3年生英語検定受検者数と合格率	受検者数と合格率	人数 %	110人 72%	79人 72%	110人 64%	147人 49%	149人 54%
③	アシスタントティーチャー(AT)の登録者数	予算範囲の登録者数	人数	11	10	10	10	12
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童生徒の学力定着と向上					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	一人当たりの児童生徒の学力定着と向上に係る経費				
	36,982	32,496	内容	学力向上対策事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	県支出金・地方債			-	-	-	-	-

事業対象	市内小・中学校児童生徒	今年度の成果	市独自の加配教員を活用し、細やかな指導が実現しました。臼杵市基礎基本テストで小中共に全学年で全国平均以上の学力を定着できています。
------	-------------	--------	---

成果指標	指標名	臼杵市基礎基本テストの正答率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	全ての教科正答率が、全国正答率を上回る割合		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	複式授業解消、少人数指導、ATの活用などによる、個に応じた指導の充実の結果として、子どもたちの学力に反映されているかを検証するため。		75%(小) 90%(中)	100%(小) 100%(中)	83%(小) 100%(中)	75%(小) 90%(中)	50%(小) 100%(中)

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	臼杵市は生きる力を身につけた子どもの育成を教育目標に掲げ、確かな学力の定着・向上に取り組んでいます。複式授業解消やアシスタントティーチャーの活用の取組により、学力保障・進路保障が適切に行われており、必要不可欠な事業です。

事業の問題・課題	質の高い授業が行われるよう授業改善に取り組むとともに、ATによる個別指導等の充実も行いました。一方で、英検補助については、英検の受験者数が増加していますが、合格率が低下しています。また、検定料の大幅な値上げがあり更なる負担減に向けた予算化が必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 7	社会教育課

事務事業名	公民館管理・運営事業(臼杵地域)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-30	生涯を通じた学びの推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	施設利用者の高齢化等による減少	
	関連施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援
		V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承

事業内容(経緯)	臼杵市中央公民館は、市民が気軽に学びに集える環境整備に努めるとともに、地域課題を解決できる住民の育成をめざし、学習機会を提供しています。また、料理教室やピアノ・リトミック教室などの公民館教室の他、各種自主・OB教室の活動も推進しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	公民館・公会堂利用団体数	利用団体数の推移(延べ)	団体・教室	1,086	1,115	1,357	1,500	1,458
②	公民館・公会堂使用料	公民館の収入(利用料)	千円	2,073	1,741	2,626	3,131	2,778
③	公民館・公会堂維持費	公民館施設維持のための支出費(光熱水費)	千円	3,018	3,385	3,567	2,489	3,058
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公民館利用者一人当たりの費用					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	公民館を維持する経費/公民館・公会堂の利用者数				
	34,313	13,223	内容	R6事業費の減少は、R5に公民館施設の改修工事を実施完了したため	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			322	286	300	498	216

事業対象	市民	今年度の成果	令和5年度の利用者数は、臼杵市民会館大ホールが大規模改修で閉館(R5.1.10~9.15)となっていたため、貸館が公民館・公会堂へと流れ利用者の増加となりました。令和6年度の利用者の減少については、臼杵市民会館への利用が可能となったためと推測されます。大規模改修も行われませんでしたので、コストが抑えられました。
------	----	--------	--

成果指標	指標名	利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	公民館・公会堂の利用状況		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	公民館(公会堂)の年間利用者数により、市民が集う場所として有効活用できているか判断する。	人	39,184	44,990	49,705	68,874	61,109

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	利用者数は減少しましたが、大規模改修も実施しなかったため、コストを抑えることができました。しかし、施設の老朽化に伴う小規模な修繕は適宜実施し、利用者の安全性と快適性の確保に努めました。				

事業の問題・課題	施設の老朽化等により改善する箇所があるため、計画的に維持補修を図っていきます。また、現在の公民館利用者に加え、利用されていない世代へのアプローチを検討する必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 8	社会教育課

事務事業名	公民館施設管理運営事業(野津地域)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-30	生涯を通じた学びの推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	施設利用者の高齢化による減少	
	関連施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援
		V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承

事業内容(経緯)	市民の誰もが輝き続ける自分づくりのために、心の豊かさや生きがいを持ち、生涯を通じて学び続けることができる施設となるよう環境整備を行うとともに、公民館教室や自主教室などの学習機会を提供していきます。Wi-fiルーターの設備により、学習内容の多様化につながりました。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	野津中央公民館利用者数	利用者数	人	17,787	21,029	25,376	29,029	28,211
②	田野地区公民館利用者数	利用者数	人	1,006	848	1,214	1,833	2,065
③	南野津地区公民館利用者数	利用者数	人	2,113	2,284	2,540	2,576	2,348
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公民館施設の活用にかかる公民館費の利用者数ひとり当たりのコスト				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11	説明・算式・引用	公民館費/利用者数				
	49,189	17,341	内容	3公民館の管理費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
			財源	一般財源		58	1,013	919	1,471	531	

事業対象	市民・団体・企業	今年度の成果	社会活動が回復していく中、公民館活動もコロナ禍前の状況を取り戻しています。とはいえ、公民館活動の中心年代は高齢者であるため、今後も大きく増加することは見込めません。「若い世代の公民館利用」を促進するため、工夫が必要です。令和4年度から令和5年度にかけて行った改修工事が完了し、令和6年度は大きな工事等がなかったため、利用者ひとり当たりのコストは下がっています。
------	----------	--------	--

成果指標	指標名	一日当たりの公民館施設(野津地域)の利用人数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	一日当たりの利用人数(3公民館の利用者数合計÷359日)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	野津地域内の公民館の稼働状況を把握することで、更なる稼働率を高める企画開発を行うため	人	58	67	81	93	91

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率性が低い	魅力ある公民館教室を企画することで、利用者の増加を図れると期待しています。しかし、実際に市民が求めているニーズをつかみ切れていないのが現状です。

事業の問題・課題	コロナ禍における利用者数の減少についてはほぼ回復したと思いますが、人口の減少、利用者の高齢化、公共交通の不便さなどにより、「利用者数が増えている」とは言えない状況です。若い世代が公民館を利用していないことも大きな問題だと考えます。若い世代は就労している場合が多いので、公民館を利用するとすれば夜間や休日が良いのではないかと思います。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 9	社会教育課

事務事業名	読書のまちづくり事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-31	読書のまちづくりの推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	学校・家庭・地域等による市民総ぐるみの読書活動と読書習慣の定着	
	関連施策名(施策コード)	II-5-10	地域内交流・地域間交流
		V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進

事業内容(経緯)	図書館では、読書のまちづくりステーションとしての機能充実を図り、豊かな感性を生む人づくりのため、学校・家庭・地域等による市民総ぐるみの読書活動と読書習慣の定着を推進しています。主な事業としては、出張読みきかせ講座の開設・活動支援・移動図書を行うとともに、本が大好きな子どもたちを育成するために子ども司書育成事業も実施しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	図書利用登録率	登録者数÷人口	%	48.1	50.8	52.7	54.6	56.9
②	人口1人あたり蔵書冊数	蔵書数÷人口	冊	4.25	4.45	4.6	4.79	4.95
③	読みきかせ講座開催数	図書館での読みきかせ講座開催数、講師の派遣回数	回	37	41	42	47	46
④	子ども司書認定者※(小5・小6対象)司書の活動・図書館運営の講座を受講したものを子ども司書として認定し、家庭・学校・地域に本が好きな子どもを広めるもの	子ども司書養成講座認定者の総数	人	57	69	84	94	105

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	読書習慣推進にかかる図書館事業の人口一人当たりのコスト				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11		説明・算式・引用	(図書館費+読書活動推進事業費)÷人口			
	18,878	39,903	内容	図書館運営費及び読書活動の推進費用	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源		485.3	479.8	477.0	563.2	1153.6

事業対象	市民	今年度の成果	令和6年度は、読書のまちづくりステーション機能の充実として、図書館の管理システムの再構築を行いました。システムの再構築により、利用者の利便性の向上、また図書館での情報データ収集の向上が図られました。また、子ども司書は新たに11名が認定されました。
------	----	--------	---

成果指標	指標名	市民1人あたり貸出冊数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	貸出冊数÷人口		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	人口比率により市民の読書習慣を数値化するため	冊	2.64	2.93	2.69	2.67	3.01

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:効率的に実施 C:改善の余地あり C:効率性が低い	学校・家庭・地域等による読書活動の推進と定着に取り組みました。特に、保育園等と連携して読み聞かせを行いました。				

事業の問題・課題	乳幼児期から読書習慣を定着させるため、学校・家庭・地域等と連携した市民読書活動を推進しているところです。特に図書館等で開催される講座やイベントへ多くの人が参加するような取り組みが必要だと考えます。また、読み聞かせボランティアの高齢化も進んでいることも課題だと考えます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 10	社会教育課

事務事業名	放課後チャレンジ教室事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	いかに参加者を増やしていけるか	
	関連施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
		I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援

事業内容(経緯)	学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的とし、放課後・土曜日・長期休暇を活用して退職教職員等の地域人材を活用した補充学習の取組です。小中学校では「放課後教室」、臼杵市中央公民館では「中3生公民館教室」を実施しました
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	小学生放課後教室参加者数	登録者数	人	214	155	139	112	109
②	中3生教室参加者数	登録者数	人	147	162	162	144	148
③	協力者数	学習指導員・協育活動サポーター等の協力者数	人	82	84	87	84	74
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	参加者一人当たりの費用				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	当該年度の事業費÷参加者数			
	6,220	5,825	内容	講師謝礼等	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			14,734	18,782	25,907	24,296	22,665

事業対象	小学生(2・3年生)・中学3年生	今年度の成果	各教室で学習指導員の工夫等により、課題に対して子ども達は楽しく学ぶことができました。また、中学3年生は志望校合格を目標に、学習習慣の定着をめざす取り組みを支援することができました。
------	------------------	--------	--

成果指標	指標名	小学生・中学生の教室登録率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	登録者数/対象学年の児童・生徒数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	放課後チャレンジ教室事業が効果的に機能しているかどうかの判断材料として指標を設定	%	41	37	34	37	35

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	放課後の学習習慣を定着させ、復習により基礎学力を向上させると同時に、学校とは少し違った雰囲気、子どもの自主性を育むことができました。				

事業の問題・課題	学校や地域の情報を集約し、協育コーディネーターを中心に協力者の確保を継続していく必要があります。また、少子化等により、小学生放課後教室の参加者が減少している現状があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 11	社会教育課

事務事業名	臼杵市体育施設管理運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-13-28	スポーツ環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	スポーツをする機会を適切に提供するため、体育施設の環境を整備する必要がある。	
	関連施策名(施策コード)	V-13-29	スポーツで健康づくり・体力づくり

事業内容(経緯)	健康づくりや介護予防・競技スポーツ振興のために各種イベントや大会等を実施しています。また、総合公園運動施設、諏訪山体育館・市民グラウンド・柔剣道場・夜間照明施設等を指管理委託し、利用者に寄り添った運営を行っています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	市民球場・多目的グラウンド利用者数	年間利用者数	人	35,313	33,974	37,562	33,902	35,973
②	テニスコート利用者数	年間利用者数	人	13,000	13,434	12,319	10,676	11,873
③	諏訪山体育館利用者数	年間利用者数	人	10,347	36,882	36,309	37,049	42,374
④	その他体育施設利用者数	年間利用者数	人	14,675	10,710	9,960	9,880	11,105

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	体育施設の活用にかかる管理費(体育施設費、体育館費、総合公園運動施設費)の利用者数一人当たりのコスト					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	管理費/利用者数				
	10,243	41,347	内容	市民球場放送設備を更新したため増額となった。	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源、地方債			3.27	0.04	0.07	0.11	0.41

事業対象	市民	今年度の成果	新型コロナウイルスが5類に移行され、各種スポーツ大会も再開し、体育施設の利用者も増加傾向にあります。また、総合公園運動施設は合宿などの誘致により安定した数値となっています。
------	----	--------	--

成果指標	指標名	臼杵地域の全体育施設の一日あたりの利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	体育施設の開場日(359日)に対する総合公園運動施設、諏訪山体育館、テニスコートその他体育施設の利用者の割合		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	健康・体力づくりや競技力向上を目指すため「ひとり1スポーツ」の定着に努める。	人	243.70	321.40	316.17	305.21	282.24

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率が低い	市民の健康増進を図るため、市営体育施設の有効活用が必要と考えています。適切な管理運営を通じて、施設の利用率を向上させ、幅広い年齢層の市民がスポーツや運動に親しむ機会を増やすことが重要です。これにより、市民の健康寿命の延伸や地域コミュニティの活性化にもつながると期待されます。

事業の問題・課題	施設の多くは老朽化が進んでおり、改修や更新の必要性があります。市民がスポーツに親しめるよう、ニーズを聞き取り、施設の充実に努めます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 12	社会教育課

事務事業名	吉四六ランド運動施設管理運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-13-28	スポーツ環境の充実
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	運動施設を安心安全に利用できるよう、最適な保安管理に努めます。	
	関連施策名 (施策コード)	V-13-29	スポーツで健康づくり・体力づくり

事業内容 (経緯)	風光明媚な自然環境のもと、市民一人1スポーツにいそむため、指定管理者による施設の利用環境整備に取り組んでいます。通常の芝生管理を進めるとともに、利用制限等を行い芝生の育成促進を図りました。
--------------	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	吉四六ランド球場の使用者数	年間使用者数	人	3,006	2,776	3,202	3,209	3,504
②	陸上競技場の使用者数	年間使用者数	人	4,662	5,959	5,077	6,762	6,179
③	テニスコートの使用者数	年間使用者数	人	3,968	2,781	2,114	2,212	1,604
④	ゲートボール場の使用者数	年間使用者数	人	6,529	8,867	6,961	6,059	6,294

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	体育施設の活用にかかる吉四六ランド管理費の使用者数一人当たりのコスト					
	前年度 (R5)	当該年度 (R6)	会計	11		説明・算式・引用	吉四六ランド管理費/使用者数				
	18,954	18,741	内容	指定管理者による施設管理保全が主体	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般財源、施設使用料			1078	902	1100	1039	1065

事業対象	市民・その他市外在住者	今年度の成果	利用制限により陸上競技場利用者は微減していますが、全体的な利用者数は大きく変わってはいません。施設設備の良好な状態維持に努めました。
------	-------------	--------	--

成果指標	指標名	吉四六ランド全体施設の利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	使用人数の月平均(全体施設の総計/12ヵ月)		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定の理由	各施設の使用率の向上を図るため		人	1,513	1,698	1,446	1,520

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	陸上競技場の芝生管理が行き届いているので、サッカーやラグビー(児童)競技が頻繁に行われています。市外を中心とした、協議団体の利用が増加し、吉四六ランドの陸上競技場の評価が高まっています。今後も好意的な評判により、市内外の利用者が増えることが見込まれます。				

事業の問題・課題	施設の一部と整備用備品等の老朽化が進んでおり、今後の保全管理に課題が残っています。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 13	文化・文化財課

事務事業名	市民会館運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	臼杵市の文化・芸術活動の拠点である市民会館の活用	
	関連施策名 (施策コード)	II-6-11 V-14-30	「うすさ暮らし」の推進 生涯を通じた学びの推進

事業内容 (経緯)	臼杵市の文化・芸術活動の拠点である市民会館の運営を行っています。令和6年度は市内中学校吹奏学部コンクールに向けた練習支援、スタインウェイ試弾会、海上自衛隊佐世保音楽隊コンサートを開催しました。
--------------	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	自主文化事業の入場者数	自主事業の入場者数	人	371	218	518	853	1207
②	大ホール利用日数	主要ホールである大ホールの利用日数	日	43	84	72	80	97
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1施設ごとの利用申請件数に係る費用(千円)				
	前年度 (R5)	当該年度 (R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費÷施設ごとの利用申請件数			
	10,979	12,763	内容	運営に係る経費	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般財源		57.0	62.0	73.0	118.0	84.0

事業対象	市民会館利用者	今年度の成果	スタインウェイ試弾会には63名の申し込みがあり好評でした。新市20周年記念行事として開催した海上自衛隊佐世保音楽隊コンサートは、反響が大きく、市内外のお客様に楽しんでいただきました。
------	---------	--------	---

成果指標	指標名	利用申請件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	施設ごとの利用申請件数		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定の理由	施設の稼働率向上が目的であるため	回	127.00	175.00	120.00	93.00	152.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	貸館運営につきましては、市内文化団体や社会教育関連団体、学校などの発表の場としての需要があります。また市主催の人権講演会が定期的に行われています。自主公演事業においても他団体との共同開催による公演実施やピアノ試弾会などの人材育成を図る事業も行います。

事業の問題・課題	市民会館の有効利用のため自主事業を増やしていきたいが、コストがかかることやマンパワーの不足が問題となる。極力コストが削減できて集客効果も期待できるNHK共催事業や宝くじ文化公演などを誘致する必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	見直し 事業の効果はありますが、施策への貢献度が小さいため、貢献度に応じたものになるよう事務事業を見直します。

番号	課名
F - 14	文化・文化財課

事務事業名	市民会館管理事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市民会館を安全に安心して利用するための施設運営	
	関連施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
		V-14-30	生涯を通じた学びの推進

事業内容(経緯)	市民会館は築後30年以上経過しており、平成29年度からは計画に基づき大規模改修工事を実施しています。令和6年度においては舞台設備上手側の改修工事と、消防点検等で指摘のあった誘導灯、スプリンクラー設備の改修工事を実施しました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	改修工事の経費	施設の改修工事に係る費用	千円	196,827	14,782	272,522	227,294	20,240
②	使用料収入	各ホールの使用料収入	千円	4,178	8,088	6,259	7,313	8,183
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市民会館利用者1人に係る費用(円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費 ÷ 利用者数				
	237,904	70,781	内容	市民会館施設設備の維持管理費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			13,643	1,366	13,398	11,117	2,186

事業対象	市民会館利用者	今年度の成果	舞台設備・誘導灯・スプリンクラーの改修等をすることで、利用者の安全確保及び利便性が向上しました。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	会館全体の総利用者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由		人	33,761	15,259	20,105	21,400	32,368

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	市民会館は、芸術文化の拠点施設として自治体、文化団体、学校等の社会活動や文化活動としての場として必要と思われます。しかし、築30年が経過しており、施設の安全性を確保するため計画的な改修工事を行う必要があります。

事業の問題・課題	保全調査委託の結果に沿った改修を行いたいですが、施設規模が大きいため、改修費用が高額になり、財源確保が必要になります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 15	文化・文化財課

事務事業名	臼杵市歴史資料館運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	小中学校の社会科学授業等での活用促進を図っているが、すべての学校の利用までとはなっていない。まずは、歴史資料館の存在を広く周知し、企画展のPRなどを行い来館者の増加に繋げていく必要がある。	
	関連施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
		V-14-30	生涯を通じた学びの推進

事業内容(経緯)	年間4回の企画展を実施しました。また、市内小中学校の児童生徒を対象に「キッズプロジェクト」の実施や、臼杵っこ検定中・上級者の中から希望者を募り「臼杵っこ学芸員」養成講座を実施しました。さらに、一般向けの「市民歴史講座」を開講し、年11回の講座を実施しました。そのほか「ふるさと歴史散歩」や月に1回「ギャラリートーク」を実施しました。特に秋季企画展では他館とのコラボ企画展を開催し、多くの来館者に喜んでいただきました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	企画展示回数	年間の企画展示回数	回	4	4	5	4	4
②	学校教育での利用件数	年間の見学件数	件	12	12	18	10	18
③	各種団体の利用件数	年間の見学件数	件	15	8	4	15	14
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	入場者一人あたりに係るコスト				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11		説明・算式・引用	事業費÷年間入場者数			
	9,575	10,591	内容		コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
			企画展関連及び運営事務等経費						1.3	2.0	1.8
財源		一般財源									

事業対象	市民(一般・児童・生徒)、各種団体、市外からの来館者	今年度の成果	3期目の「市民歴史講座」は、募集定員を上回る応募があり、各回出席の受講者数も多く、一般市民向けの企画として好評でした。秋季企画展では立花家史料館とコラボ企画展を行い、会期中には記念講演会やイベントを実施するなど、企画展の内容を広く興味を持てるよう工夫し、入館者数に好評でした。
------	----------------------------	--------	--

成果指標	指標名	入館者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年間の入館者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	入館者数の増加が目的であるため	人	3,075	5,799	6,433	4,709	5,724

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	資料館の外周に「幟」を立てて資料館の存在をアピールしたところ、幟を見て入館してくれる方もいらっしゃいました。学校教育(総合学習や社会科学学習)での利用の呼びかけを校長会などを通じて行い、昨年度を上回る見学件数を数えました。				

事業の問題・課題	企画展については、時宜を得た企画内容の充実をはかる必要がありました。市内小中学校(特に小学校)に「キッズプロジェクト」を利活用してもらうために、各学年(3年生～6年生)の社会科学学習の単元に沿った企画内容になるよう工夫していく必要がありました。マスコミ等を利用した企画展の紹介について、回数や場所を増やす必要がありました。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 16	文化・文化財課

事務事業名	臼杵磨崖仏保存対策事業	新規・継続・単年	新規
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市のシンボル「国宝・特別史跡臼杵磨崖仏」を永久に残し伝えていくための保存対策の実施	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯)	臼杵磨崖仏を永久的に保存していくために、磨崖仏の現状を把握するための目視観察、写真撮影、温湿度データ回収によるモニタリングを行いました。また、磨崖仏の岩体劣化を防止するために紫外線照射による着生生物類の除去を行い劣化の予防を図りました。さらに、磨崖仏周辺環境についても、覆屋の自動火災報知設備の整備のための基本設計、実施設計を行い、3期にわたる保存修理工事により向上した磨崖仏の保存環境のさらなる安定を図る準備を行いました。さらに、共同研究にて磨崖仏仏体片の張り戻しを選定した接着剤を用いて実施しました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	磨崖仏観測モニタリングの実施およびデータ解析	モニタリングデータ解析率	回	10	30	50	70	90
②	着生生物類除去作業の実施	磨崖仏全体で見た生物類除去箇所の割合	%	30	30	30	30	30
③	磨崖仏覆屋に自動火災報知設備の設置	火災報知設備設置の進捗	%	-	-	-	-	30
④	共同研究の実施	共同研究進捗状況	%	10	25	60	70	80

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	共同研究の実施					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11		説明・算式・引用	共同研究の実施(%)				
	16,307	20,690	内容	磨崖仏保存対策に係る経費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一部国庫補助			10.0	25.0	60.0	70.0	80.0

事業対象	国宝・特別史跡臼杵磨崖仏	今年度の成果	臼杵磨崖仏について保存対策のために必要な事業を着実に行うとともに、今後の保存環境の向上についての事業も実施しました。
------	--------------	--------	--

成果指標	指標名	磨崖仏覆屋に自動火災報知設備の設置	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	自動火災報知設備設置の進捗状況		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	保存活用計画にも記載している自動火災報知設備設置を推進する必要があるため	%	-	-	-	-	30.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	臼杵磨崖仏は自然の中に位置する文化財であり、環境の変化に非常に左右されます。このため、観測でしっかりと状況を把握したうえで、着生生物類の除去や、脱落片の張り戻しなどを実施できたことは今後の磨崖仏保存対策を続けるうえで一つのモデルを確立できたと言えます。また、自動火災報知設備についても着実に整備に向けて準備を進めることができました。

事業の問題・課題	モニタリングについては、順調に報告などまでの流れを確立してきているものの、緊急的な事態が起きた際の連絡体制などについてまだまだ検討を行う必要があります。また、着生生物の除去については、異常気象などの影響で繁殖速度が早くなったりした場合にこれまでの箇所数の施工では追い付かなくなる可能性が高い状況です。そして、脱落片については、これからどこまでを戻していくかを検討してから本格的に貼り戻しを実施していかなければなりません。 本来こうした事業は磨崖仏を保存していくうえで必要不可欠なものであり、数値で図ることが非常に難しい事業です。数値を重要視するあまり本来不必要な処置などを行い、本当に必要な部分が見落とされるなどの事態に陥らないよう数値で図ることが適切か図る必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 17	文化・文化財課

事務事業名	国指定史跡臼杵城跡保存修理事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵城跡の将来的な保存活用に向けた取り組み	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯) 臼杵城跡の歴史的価値のさらなる保存活用を図るために国史跡への指定を目指し、史跡指定の際に必要な総合報告書の作成に取り組み刊行しました。また、平成29年から相次いで臼杵城跡の石垣や岩盤が崩落する事故が起きており、特に古橋口鎧坂では園路に落石が及んでいました。このため、公園利用者の安全な通行を確保するために仮設防護壁を設置し、岩盤崩落対策としました。今後も計画的に安全対策と修理を施していくために保存対策調査を行い、保存活用計画・保存整備基本計画を策定して対策を実施する必要があります。

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	鎧坂保存対策(仮処置)の実施	対策の進捗状況	割合	-	30	100	100	100
②	国史跡への指定	指定の進捗状況	割合	-	-	30	45	100
③	保存対策調査の実施	調査の進捗状況	割合	-	-	-	-	50
④	保存活用計画の策定	策定の進捗状況	割合	-	-	-	-	50

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	保存活用計画の策定					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	計画策定の進捗状況(%)				
	14,194	12,505	内容	国史跡指定のための取組に係る経費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			-	-	-	-	10.0

事業対象 国史跡臼杵城跡 今年度の成果 令和7年3月に国史跡に指定されました。また、臼杵城総合報告書作成に必要な石垣測量等を実施しました。

成果指標	指標名	国史跡指定の進捗率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	指定の進捗率		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	臼杵城跡の今後の保存活用に向けた最初の取り組みとなるため		%	-	-	30.00	45.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	石垣や櫓、がけ面といった城郭遺構の保存対策を行うことは、史跡の歴史性を守り、利用者の生命を保護する高い効果があり、保存修理対策は、現状の形状や素材を変えずに行うので、コストはかかります。しかしそれによって文化財としての歴史的価値や、伝統的な工法を後世に伝えることができ、コストに見合った効果があります。				

事業の問題・課題 文化財の歴史的価値を損なわないように保存対策を行ったり、遺構の崩壊の危険性がある場所を通行止めにする事によって、都市公園としての利用者や観光客に不便をかけることがあります。また、災害時に避難所として活用するためにも、日常の遺構の崩落やその危険性についての把握を行い、対処を行う必要があります。

目標達成に向け、次年度以降の取組 国史跡指定を受けてすぐに遺構の劣化調査を行い危険箇所を把握して危険度ランクを設定するとともに、史跡の保存活用計画、保存整備基本計画を策定して計画的な危険対策としての遺構保存修理工事を行います。

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 中	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 18	文化・文化財課

事務事業名	国史跡下藤キリシタン墓地保存活用事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	国史跡下藤キリシタン墓地の確実な保存と幅広い活用に向けた整備の実施	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯)	下藤キリシタン墓地について、保存活用を行っていくために必要な方針である保存活用計画を令和3年度に策定し、令和5、6年で整備基本計画を策定しました。今後はこの計画に基づいて用地買収や史跡内及び周辺の整備を実施していく予定です。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	国史跡下藤キリシタン墓地保存活用計画の策定	計画策定の進捗状況	割合	80	100	-	-	-
②	国史跡下藤キリシタン墓地整備基本計画の策定	計画策定の進捗状況	割合	-	-	-	20	100
③	整備に向けた用地買収	用地買収の進捗状況	割合	-	-	-	-	-
④	史跡内整備の実施	整備事業の進捗状況	割合	-	-	-	-	-

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	国史跡下藤キリシタン墓地整備基本計画の策定				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11		説明・算式・引用	整備基本計画策定費用			
	3,620	5,228	内容	整備基本計画策定	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国庫補助		-	-	-	3,619	5,228

事業対象	国史跡下藤キリシタン墓地	今年度の成果	整備基本計画を策定し、整備に向けた基本方針を策定しました。
------	--------------	--------	-------------------------------

成果指標	指標名	国史跡下藤キリシタン墓地整備基本計画の策定			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	計画策定の進捗状況				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	方針となる計画の策定が整備に先立って求められるため			%				20.00	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由		
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	下藤キリシタン墓地の整備が理想的なスケジュールで策定することができ、全体のプランについても図化することができたことで、より視覚的に整備の方向性を認識しやすくなりました。また、具体的な方針を地区などと話をしながら進められたことで地区と協力した整備を進めていく準備を整えることができました。		

事業の問題・課題	実施に整備について設計を行っていく段階で史跡の価値を守りながら土地の改変などを行っていくこととなりますが、この際に工法などをしっかりと委員会など有識者に諮りながら行う必要があるため、場合によっては整備に遅れが生じる可能性があります。しかし、これらは整備をよりよいものにしていくために必要不可欠な事業であることから、事前の調査を確実に行った上でこうした意見の聴取へと移れるような準備を進めていく必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。